

山口日独協会ニュース

Neuigkeiten der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Yamaguchi

Nr. 138, Januar, 2019

山口日独協会 〒753-0083 山口市後河原94
Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yamaguchi:
Ushirogawara 94, Yamaguchi, 7530083, JAPAN
TEL/FAX : 083-920-2965
<http://www.jdg-yamaguchi.jp/> メール:info@jdg-yamaguchi.jp

協会からのお知らせ

1 2019年度総会のご案内

第27回定例総会を下記のとおり開催いたします。

*日 時 2019年2月10日(日) 15時00分～18時00分

*会 場 湯田温泉ユウベルホテル松政 2階芙蓉の間
(山口市湯田温泉3丁目5-8/TEL083-922-2000)

会場は、今年も湯田温泉のホテルで行います。

JR湯田温泉駅から徒歩15分。バスの場合は、湯田温泉バス停で下車し、徒歩1分。
また、温泉に入りたい方は、無料で千人湯に入れます。温泉付き、ワイン付き等々の総会をお楽しみください。

*総 会 平成30年度事業・決算報告、
平成31年度事業計画・予算協議、役員改選 その他

*記念行事 講演:「ドイツの近況紹介」(仮題・講師調整中です)

*懇親会 16時00分～18時00分 ワイン・パーティ

*会 費 3,000円(懇親会のみ)

総会並びに懇親会の出欠は、同封のハガキで2月6日までにお知らせ下さい。

総会ご欠席の場合は、ハガキの委任状に御記入の上、必ず投函いただきますようお願い
します。(総会の成立には会員の皆さんの過半数の出席又は委任状が必要です)

返信ハガキには、通信欄がありますので、会員の方の近況、協会への御意見等何なり
と御記入をお願いします。皆さんからの近況報告等という事で、会報にも掲載させて
いただきます。

総会の状況、結果は、次回の会報でお知らせいたします。

2 行事のご案内

(1)「五十嵐薫子ピアノ演奏会」

・日時:2019年2月8日(金) 18時30分開演/18時開場、・全席自由:¥1,000

・場所:ポルシェセンター山口ショールーム (山口日産自動車㈱内)

・内容:・ピアノ:五十嵐薫子

①リスト=フランツ・シューベルト

水の上で歌う、君は我が憩い、糸を紡ぐグレートヒェン、魔王

②リスト ラ・カンパネラ、ため息、ドンジョヴァンニの回想

・主催:山口日独協会,協賛:Connoisseur Colleagues,㈱松永ピアノ、・後援:山口EU協会
＜プロフィール等詳細は、同封のチラシをご覧ください＞

*チケットはプレイガイドか、上原理事長にご連絡下さい。

(2) 「ヴィオラ・チェロ・ピアノによる演奏会」

- ・日時：2019年3月8日（金）18時30分開演/18時開場、入場無料
- ・場所：ポルシェセンター山口ショールーム（山口日産自動車株内）
- ・内容：①ブラームス：ヴィオラ ソナタ第2番変ホ長調 Op120-2
②リヒャルト・シュトラウス：チェロ ソナタへ長調 Op6
③ブラームス：クラリネット トリオ(ヴィオラ版)イ短調 Op114
チェロ：辻本 玲、ヴィオラ：中恵 菜、ピアノ：中迫 研
- ・主催：Connoisseur Colleagues, 山口日独協会, 協賛：株松永ピアノ、後援：山口EU協会
＜プロフィール等詳細は、同封のチラシをご覧ください＞

3 行事のご報告

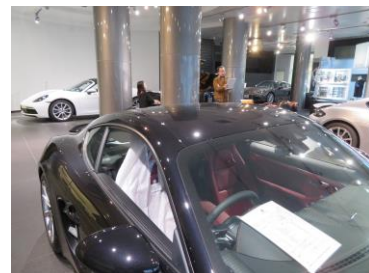
(1) クリスマス会 (Weihnachtsfest)

12月9日、山口市大庭地域交流センターにて開催しました。今回は過去で最多の38名が参加、楽しいひと時を過ごす事ができました。



(2) 「ドイツ歌曲の夕べ」

2018年12月24日クリスマスイブの夕、ドイツリートをお楽しみ頂きました。当日のプログラムには歌われた歌曲のドイツ語と日本語訳をすべて掲載し、ドイツ語と音楽の響きを堪能して頂きました。当日は広く親しまれている「きよしこの夜」が、200年前オーストリアで初演された日で、最後は皆さんと一緒にこの曲を歌って散会しました。



リハーサルの時は高級車の中で

4 会員の皆さんからの投稿

「ドイツツアー紀行」

7月31日から8月7日に実施したドイツツアー紀行を次ページ以下に掲載しています。
3回目は、村岡秀美氏「ドイツ旅行の思い出」、嶋田日出夫氏「モーゼル紀行：SMW (SAAR-MOSEL-WINZERSEKT) 社を訪ねて」です。

ドイツ旅行の思い出

村 岡 秀 美

昨年山口日独協会の会員になった私は幸運にも「モーゼルワインとルクセンブルグの旅」に参加することができました。私にとって初めてのドイツ旅行でしたが、どの行程もとても楽しく笑顔の絶えない旅でした。ビギナーで私風ですが特に印象に残った事をご紹介しますと思います。

旅の参加者は総勢15名です。その内ドイツで一緒するアンゲリカさん姉妹他3組のご夫婦が現地集合。これにはびっくり。さすが皆さん旅慣れていらっしゃいます。

日本ではビジネスホテルに慣れているつもりでしたがドイツのホテルのエアコン事情は!? 入口が小さなホテルの狭い階段を上がり、ドアを開けると絵画が飾られ、カーテンが重厚、壁紙はおしゃれ、バスルームはガラス張り、シャワーの位置が高い、バスタブが無い等々とヨーロッパに来た。ドイツに来た。と、頭がフル回転する中、エアコンは。。。ここはドイツ!と思ったのでした。

モーゼル川遊びでは、船から見るワイン畑に感動しさっそく白ワインで乾杯♡ 時間がゆっくり流れることを楽しみ、川べりでキャンピングカーを止めサイクリングやカヌーを楽しむ夏休みの過ごし方を羨ましく思いました。

SMW 社見学とワイン会ではシュミット会長からゼクトへの思いを聞けました。

『ワイン作りだけでなく、社会貢献をすることが大切。自社のゼクトを守るだけでなく地域全体を盛り上げる意識の高さが必要』と話されました。感動しました。試飲会が始まると明るい接客とワインリスト以外の試飲などで盛り上がり皆さん大感激。試飲会終了後は出口まで見送ってくださるシュミットさんに頭が下がりました。素晴らしいおもてなしはワインを大切に思う情熱となって届きました。

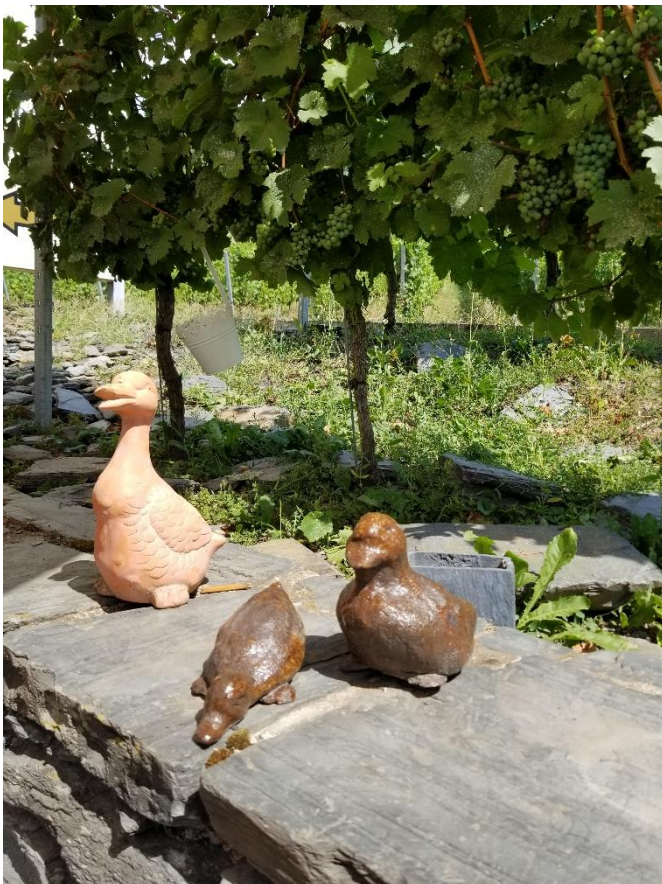
メーリングー畑でのピクニック。64歳セバスティアンさんは熱い男性。『28の畑(約4ha)全て手仕事で作業します。手を抜きません。全て見て回ります。だから行きたいけど忙しくて日本に行けません。』とおっしゃいます。美味しいワインには理由がありました。訪問して知る信頼がありました。奥様の郷土料理も楽しみました。ここでもまた、ワインリスト以外に食事に合ったワインを。と頂きました。

元気!やるき!拘り!サービス精神!明るさ!



『神が与えてくれた景色にブドウを植えて守っていく！』

セバスティアンさん
語録より



ケーニヒヨハン醸造所。この日2度目のワイン会。午前中から計15種類近く試飲したような（笑）

それでも美味しく楽しく🍷

これからワインを始める人も、気軽に手に取るに違いない可愛いラベルが印象的でした。ファミリー色が強くカジュアルで温かい雰囲気のパンフレットがキュートです。

この後もルクセンブルグやフランクフルトへと旅は続きます。交通手段も電車やバスに乗ったりアウトバーンを走ったりと様々な乗物も体験しました。そしてたくさんの楽しい思い出ができました。安心と安全に楽しさが加わり素晴らしい旅ができたことを感謝しています。この旅の企画をしてくださった山口日独協会理事の皆様、また現地でも直接お世話になった参加理事の皆様、旅をご一緒した皆様のお蔭です。有難うございました。次回はビギナーを改めドイツ好きとして参加できたらと思っています。



モーゼル紀行：SMW（SAAR-MOSEL-WINZERSEKT）社を訪ねて

嶋田 日出夫

昨年夏のモーゼルワイン旅行、朧げな記憶を頼りにちょっと思い出してみたいと思います。旅の全様は参加された皆さんの紀行文でお分かりいただけたと思いますので、私は主としてシュミットさんの会社、SMW 社を訪ねた時のことを紹介させていただきます。



この建物は元々是他社のワイン倉庫だったそうですが、解体の話が出た時にシュミットさんがこの素晴らしいデザインの建物を残そうと考えて買い取ったのだそうです。そして現在は SMW 社のゼクトの醸造所と地下倉庫があります。私たちはそこでゼクトの製造過程を見学することができました。



まずは瓶詰めです。最初はビール瓶の金属蓋と同様の栓をします。そして地下の倉庫へ。



ずらりと並んだゼクトの瓶、瓶、瓶……。ここで、手作業で一本一本少しづつ回転させてゆきます。瓶の角度も段々変えられるように、瓶を支える板の穴は縦長の楕円形をしています。そして注意深く見ると、瓶の底には白い線が描かれています。この線の位置で回転させる角度を知ることができます。実は、私たちの大好物のゼクト **Dichter Traum** をオーバーヴィーゼで買い求めて飲んだ時、瓶の底に白い線があるのに気づいたのですが、ようやくその線の意味が分かりました。ふむふむ、納得！



ゼクトの倉庫の天井は、蜘蛛の巣に絡まった埃だらけ。これがとっても大事なものと聞かされ、ひょっとして日本酒の蔵のような蔵付き酵母なのかなと勝手に思ったところ、有害な虫（コルクが好物らしいです）を退治してくれるのだとか。はあ、恐れ入りました。シュミットさんが若い時に何も知らなくて、良かれと思いこの埃を掃除して大失敗、大変怒られたそうです。そして最後に金属の蓋からコルク栓へと変わり、ラベルを貼られて出来上がりとなります。



見学のあとは、いよいよお待ちかねの試飲会へ。4種類のゼクトと4種類のワインを次々にいただいたのですが（上の写真に写っているのが試飲した8種類のボトル）、その会場がまた特別な部屋で・・・、**Schlaraffia Augusta Trevirorum** という特別？な団体の例会場となっている部屋だそうで、その関連のエンブレム（ヴァッペン）や旗や写真などがずらりと展示されていました。ロータリークラブやライオンズクラブは日本にもたくさんありますが、ちょっと異なるようですね。イルミナティのような秘密結社ではないでしょうが、イルミナティと同様にフクロウがシンボルなのか、木彫や旗、またエンブレムにも表されています。また、卓話台の正面に貼ってあるエンブレムには **Augusta Trevirorum** と記されていますが、これは **Trier**（トリーア）のローマ時代の呼び名のようです。また、**Schlaraffia** という団体は1859年にプラハで創設されたそうで、今では世界中にあるとか。ここトリーアの **Schlaraffia Augusta Trevirorum** も100年以上の歴史ある団体だそうです。



会員一人一人のエンブレムは、その人独自のオリジナルで、職業や趣味などが分かります。どれも、なかなか素敵なデザインですね。左上に斜めの黒線が描かれているのは、亡くなられた会員の方々だとか。この代表的なゼクト **Dichter Traum**（詩人の夢）由来のゲーテの石膏像も、頭部に月桂樹ではなく葡萄の葉でしょうか冠を戴き置かれていました。試飲会では美酒を堪能するのに忙しく、写真を撮るのをすっかり忘れていまして、試飲会の様子を皆さんに紹介できなくて申し訳ありません。



さあ、ほろ酔い気分でようやく外へ。これからホテルへ戻ります。楽しかった、そして、美味しいゼクトとワインをありがとうございました。

Auf wieder sehen !

<事務局からのお知らせ～ドイツ関係図書の御紹介>

①徳島新聞編集局編「第九永遠なり 鳴門初演 100 年」

徳島県鳴門市にあった坂東俘虜収容所でドイツ兵捕虜が「第九」を日本で初めて全曲演奏して、昨年は 100 周年でした。坂東収容所では、会津出身の松江豊寿所長や地域住民らが敵国ドイツ兵に人道的に接しており、多様な価値観や人間の尊厳を認めた精神が絶賛されています。この交流を徳島新聞が 2 年間にわたり掲載され、この度編集されたものです。

連絡先：徳島新聞社編集委員藤永英之 メール：fujinaga@topics.or.jp

(上原注) トリアー独日協会ヨーハン・アウバート会長は、「私はこの所長を一番尊敬している」と言っておられ、松江所長の人となりを熱く語られていました。

②「ドイツの実情」(2018 年改訂版・ドイツ連邦共和国外務省刊)

本書は、ドイツ関係の数字、データー、グラフをふんだんに盛り込んで、信頼できる最新の情報をコンパクトに伝え、ドイツの現代生活のあらゆる領域について、確かな知識と展望をお届けする実用的なハンドブックです。

①は徳島新聞社、②はドイツ総領事館から 1 冊寄贈を受けました。ご興味の方はお貸しします。上原理事長までご連絡下さい。